

今日の話題



岸辺の木立の中から現れたタンチヨウのつがい、ゆっくり、ゆっくりと足を運んで流れを渡り、雪に覆われた中州にたどり着いた。

鉦路市の音別川。澄み切った水の美しさが際立つ。

川近くに位置する大塚食品と大塚製薬工場の2工場が川の伏流水を利用している。

大塚食品は

「オロナミンC」などの清涼飲料を、大塚製薬工場は病院で使われる栄養補給用の点滴バッグを、それぞれ製造する。

道内のどの店でもいい。オロナミンCを手にとってみよう。賞味期限を示す数字の脇に「OFK」の3文字が印刷されているはずだ。

「OF」は大塚食品の英訳の頭文字。そして「K」は鉦路を

指す。国内販売のオロナミンCの半数は鉦路で生産されており、東京以北は大半が鉦路産。点滴バッグの製造番号にも鉦路を示す「K」の文字が添えられている。

音別川の水が加工され、全国各地の多くの人々ののどを潤し、また命をつなぐ。

「音別川の水は汚れが少なく、それが工場立地の決め手でした」。大塚食品鉦路工場の中村智

幸工場長はそう話す。

鉦路市と合併前の旧音別町は1970年に閉山した炭鉱に代わる産業をと、大塚食品などの二つの工場を誘致した。その先見の明が光る。

鉦路市は新たな地域振興策として「花粉症ゼロ」や夏場の涼しさなどの売り込みを図る。

音別川に並ぶ隠れた資源を見つけた。 (伊藤 一哉)